

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	設計製図5 (Atelier Practice of Design and Drawing 5)		授業コード	L031001
担当教員名	西村 謙司・島岡 成治		科目ナンバリングコード	L40310
配当学年	4	開講期	前期	
必修・選択区分	建築コース（選択必修） インテリアデザインコース（選択） 環境・地域創生コース（選択）	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特にありません。			
受講心得	問題に取り組む積極的な姿勢が大切です。そのことが卒業研究、卒業設計のみならず、社会に出たときの実践的能力を養います。			
教科書	特にありません。			
参考文献及び指定図書	適宜紹介します。			
関連科目	建築計画1・2、設計製図1～4 など			

授業の目的	設計製図4と同様に、広い意味でのデザイン教育を重視した建築設計演習です。特に、建築の空間構成に関する能力や造形力、表現力など設計技術に関する能力の向上だけでなく、現実の社会や都市などに潜む諸問題の発見や社会的提案などを含む、建築設計の総合的能力を向上させることが目的です。そのため、具体的な地域を対象として設定します。
授業の概要	「日本建築学会設計競技」の課題に沿って設計演習を行います。グループおよび各自の課題に対する幅広い学習・研究が必要になりますが、そのような学習のあり方そのものが創造的であることが望まれます。また、こうした作品制作を通して、各自にとって、建築をつくることの意義を改めて問い直すことも重要であると考えています。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：課題発表 設計製図の課題発表を行います。例年、日本建築学会設計競技の課題に沿って、演習が行われます。まず、課題の内容を具体的に説明し、コンペへの取り組み方について説明します。	過去の作品調査
第2週：課題の検討 発表された課題の内容の検討を行います。課題のとらえ方を理解するとともに、基本方針の打ち出し方について説明します。	コンペ課題・与条件の整備
第3週：設計趣旨の検討 課題に対して、敷地が選定される地域を想定しながら、基本方針を打ち出していきます。基本方針をもとに設計趣旨をまとめていきます。まずは、設計趣旨を作成するための参考図書の調べ方について説明します。	参考図書リストの作成 参考図書の読解
第4週：敷地調査1 課題に対する基本方針の検討とともに敷地の選定を行います。敷地選定のための基礎調査を行い、敷地及びその敷地が存在する地域の特性について深く調査を行っていきます。	敷地調査
第5週：敷地調査2 敷地が選定されたならば、敷地について詳しく調査を行います。調査は周辺地域を含め地理学・歴史学・民俗学など他の学際分野の基礎資料をもとに建築的な観点から行います。調査の結果をビジュアルにプレゼンテーションするトレーニングも同時に行います。	敷地調査の結果を示すプレゼンテーションボードの作成
第6週：敷地調査3	

敷地調査の結果は、地図、図表などを用いて表現します。その表現方法の説明をし、コンペの課題に相応しい表現を試みます。		敷地調査の結果を示すプレゼンテーションボードの作成
第7週：問題点の抽出と設計趣旨の作成 敷地調査や課題の初期検討をふまえた上で、設計趣旨の作成を行います。設計趣旨は、設計の動機・目的・方法が明確にわかるように作成します。		設計趣旨の作成
第8週：エスキス1 基礎調査と設計趣旨をふまえた上で、基本設計を行います。基本設計のエスキスのチェックを行い、エスキスを進化させます。		エスキス作成
第9週：エスキス2 エスキス1をふまえた上で、機能の検討とエスキスチェック2を行います。		エスキス作成
第10週：エスキス3 エスキス2をふまえた上で、造形の検討とエスキスチェック3を行います。		エスキス作成
第11週：エスキス4 エスキス3をふまえた上で、構造の検討とエスキスチェック4を行います。		エスキス作成
第12週：図面の作成 基本設計の内容を三面図で表現します。作成した図面のチェックを行います。		図面の作成
第13週：模型の作成 三面図をもとにプレゼンテーション用の模型を作成します。作成した模型のチェックを行います。		模型の作成
第14週：プレゼンテーション 基礎調査および設計趣旨をビジュアルに表現したものと図面、模型写真をすべて集めてプレゼンテーションボードに表現します。プレゼンテーションボードの作成方法について説明します。		プレゼンテーションボードの作成
第15週：プレゼンテーション、提出 課題の最終チェックをし、日本建築学会へ完成図面を提出します。		プレゼンテーションボードの作成
第16週：期末試験 提出した作品について講評会を行います。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①課題の探求、設定、解決方法の提案のため、学生自らが学外の関係各所に出向いて調査し、主体的に作品制作する積極性を身につける。
【知識・理解】	②取り組んだ課題とその解決方法の提案のための基礎的知識を身につける。
【技能・表現・コミュニケーション】	③建築の空間構成に関する能力、造形力、表現力を修得する。 ④建築設計に関する高度なプレゼンテーション技術を修得する。 ⑤作品制作のため、チームで役割分担をするとともに、スケジュール管理も含め意思疎通を図ることができる。
【思考・判断・創造】	⑥現実の社会や都市の諸問題に対する解決方法を模索するための基礎力を身につける。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		30点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	提出することが最低条件です。その内容については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。 S:よく満たしている。 A:ほぼ満たしている。 B:一応満たしている。 C:一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	